

「肺癌に対する放射線治療の治療成績ならびに有害事象に関する多機関共同・後ろ向き観察研究」に対するご協力のお願い

研究代表(責任)者 武田 篤也
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 放射線科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2014 年 1 月 1 日より 2024 年 12 月 31 日までの間に、放射線治療科にて肺癌の治療（症状緩和目的の治療は除く）のため入院あるいは通院し、放射線治療を受けた方

2 研究課題名

承認番号 20251001

研究課題名 肺癌に対する放射線治療の治療成績ならびに有害事象に関する多機関共同・後ろ向き観察研究

3 研究組織

研究代表機関

慶應義塾大学医学部 放射線科学教室（治療）
慶應義塾大学病院 放射線治療科

研究代表者

教授 武田 篤也

共同研究機関

大船中央病院 放射線治療センター
さいたま市立病院 放射線治療科
さいたま赤十字病院 放射線治療科
足利赤十字病院 放射線治療科
東京医療センター 放射線治療科

研究責任者

センター長 鶴貝 雄一郎
部長 川瀬 貴嗣
部長 江里口 貴久
部長 川口 修
科長 萬 篤憲

4 本研究の目的、方法

手術が行えないあるいは希望されない肺癌患者さんに対しては、放射線治療（±薬物療法）が一般的に行われています。最近では、放射線治療の技術が進歩し、免疫チェックポイント阻害薬などの新規の薬剤も登場し、治療効果や安全性が少しずつ向上してきました。しかし局所進行肺癌や一部の早期肺癌の治療成績は未だに不十分と考えられており、安全性を担保しつつ治療成績を向上させる照射技術の研究が進められています。

本研究では肺癌に対して放射線治療を施行したデータを過去に遡って調査し、異なる照射方法における治療成績や有害反応について検討します。より大規模なデータにより解析の信頼性を高めるため、共同研究機関のデータを統合して本学にて解析する予定です。

5 協力をお願いする内容

電子カルテによる病理組織検査結果（組織型、遺伝子変異、PD-L1）、生理（呼吸機能）、画像検査所見（診断時とフォローアップの体幹部 CT、頭部 MRI、PET-CT）、検体検査（腫瘍マーカー、KL-6、SP-D）、肺癌治療に伴う有害事象のデータ、治療計画装置による放射線治療データを収集します。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2034 年 12 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、診療情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

住所：〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35
慶應義塾大学医学部 放射線科学教室 澤田 将史
連絡先電話番号：03-5363-3835（平日 9:00-17:00）

以上